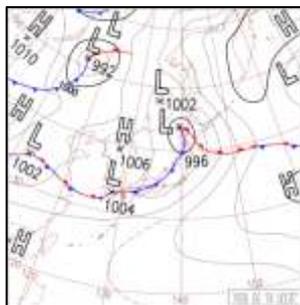
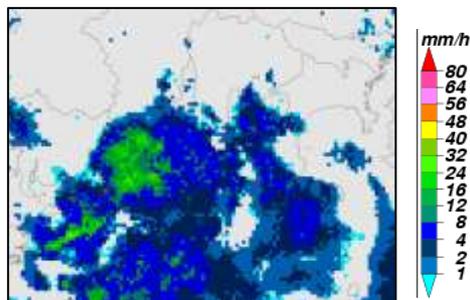


## 1. 気象経過

27日から28日にかけて前線を伴う低気圧が日本海を北東進した。27日夜遅くには、低気圧からのびる温暖前線が県内を通過していった。前線通過後、低気圧に向かって暖かく湿った南風が吹き込み、御前崎測候所では風速10m/sを超える風が吹き続けるなど一気に風が強まった。このため、山地まで南風に変わり、雨雲が県内全域にかかり始めた。その後、所々にある発達した積乱雲が東海西部から東進してくる際に、断続的に激しい雨となったが、顕著な強雨はなかった。



2000年6月28日9時  
地上天気図



2000年6月28日8時0分  
気象レーダー

## 2. 大雨の原因、特徴

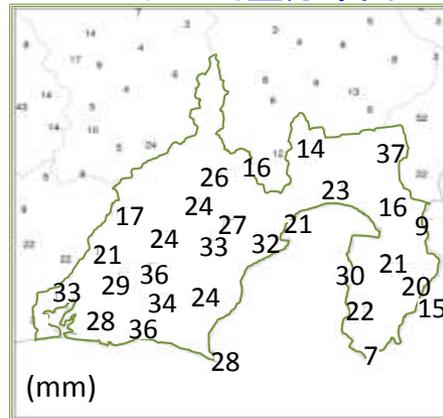
温暖前線が通過する際、局地的な前線が山沿いにある場合は、前線が顕在化し停滞することがしばしばあり、大雨の要因となっているが、本事例は低気圧に向かって吹く風が強く、前線を一気に北上させたため、典型的なパターンにはならなかった。南寄りの強風となると富士山周辺で強雨となりやすい。また、本事例の様に熊野灘から愛知県付近で線状分布となった強雨域が県内を発達しながら東進していく場合があり、注意が必要である。

## 3. 被害概要

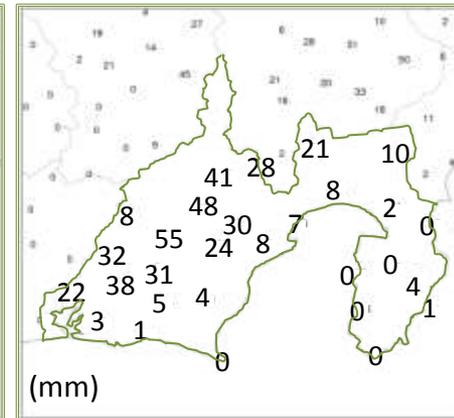
	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 損壊 (棟)	死者 (人)	負傷 (人)	避難 (人)	道路 (区間)	橋梁 (区間)	河川 (区間)	砂防 (区間)	鉄道 (区間)
全県	4	26	0	0	1	0	0	0	1	24	1	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
西部	0	10	0	0	1	0	0	0	-	-	-	-	-
東部	4	16	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成12年における災害の状況による

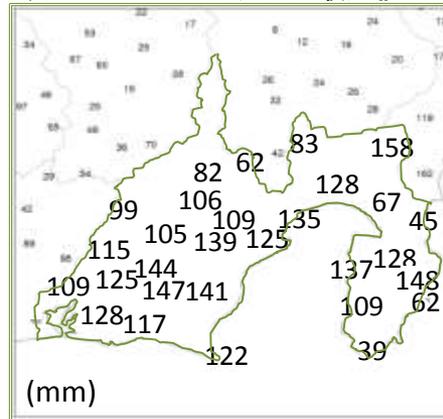
## 4. アメダス雨量分布図



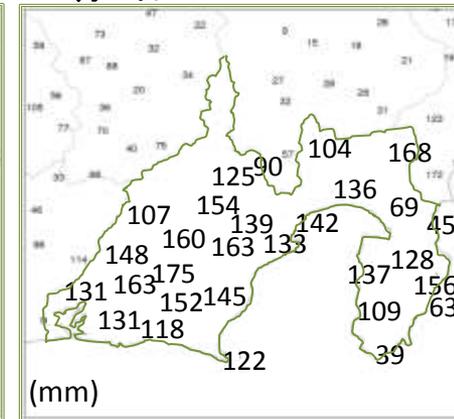
アメダス1時間雨量(正時毎)  
6月27日～28日における最大値



アメダス日雨量  
6月27日

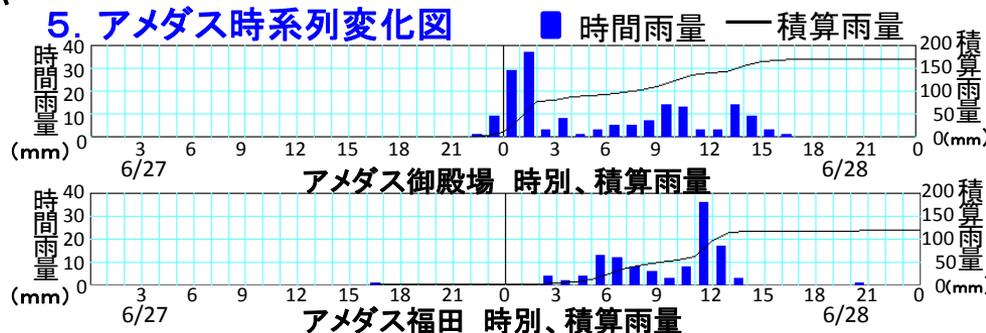


アメダス日雨量  
6月28日



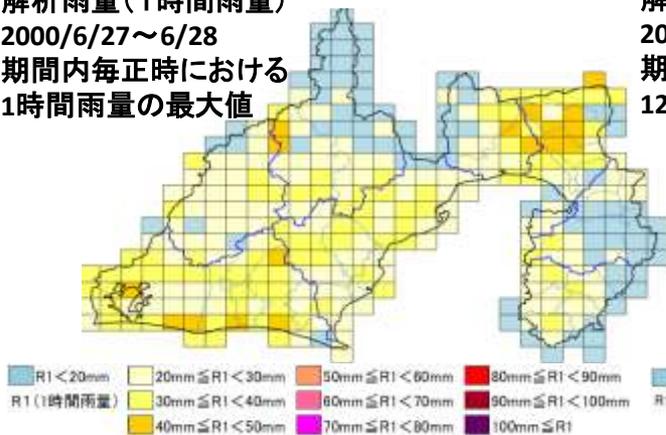
アメダス3日間雨量  
6月26日～28日

## 5. アメダス時系列変化図

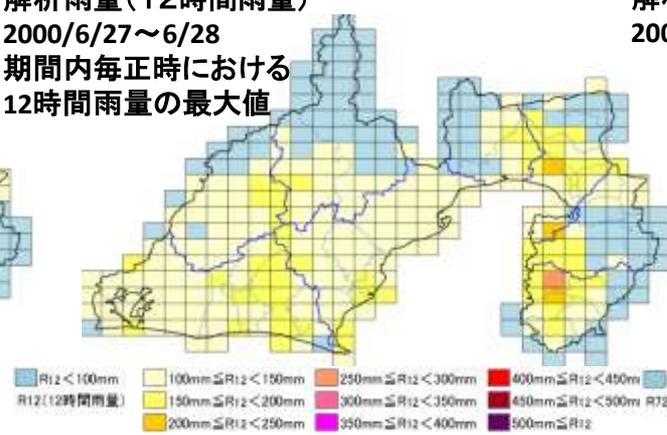


# 6. 解析雨量分布図

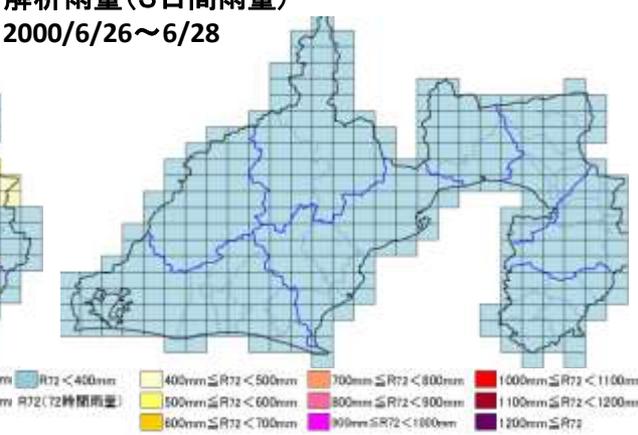
解析雨量(1時間雨量)  
2000/6/27~6/28  
期間内毎正時における  
1時間雨量の最大値



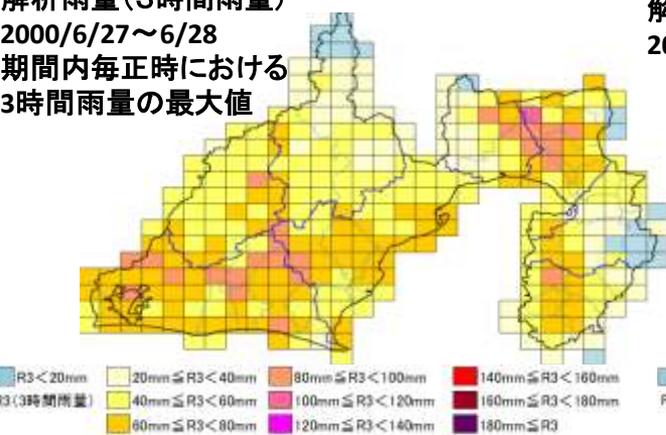
解析雨量(12時間雨量)  
2000/6/27~6/28  
期間内毎正時における  
12時間雨量の最大値



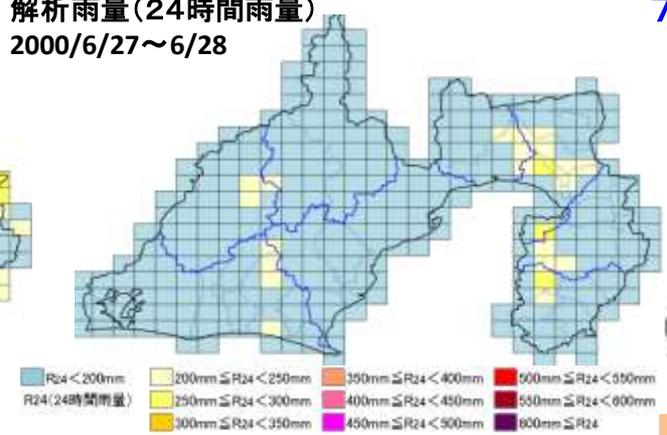
解析雨量(3日間雨量)  
2000/6/26~6/28



解析雨量(3時間雨量)  
2000/6/27~6/28  
期間内毎正時における  
3時間雨量の最大値



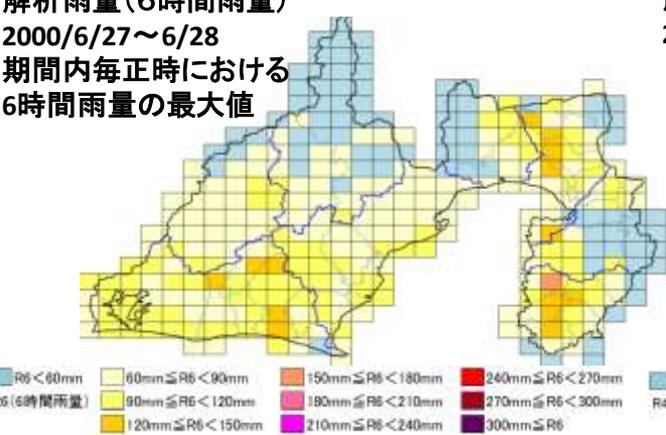
解析雨量(24時間雨量)  
2000/6/27~6/28



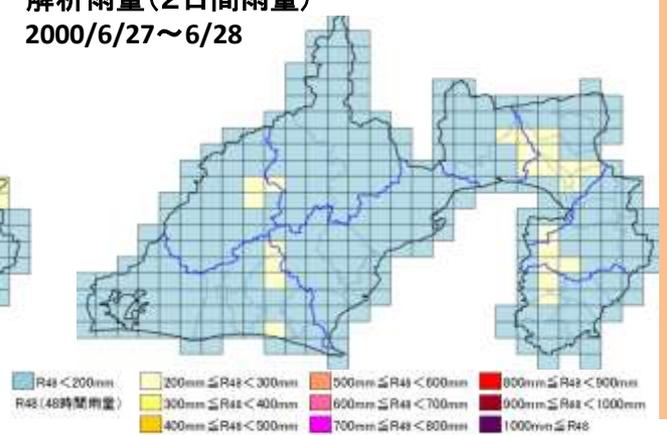
# 7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



解析雨量(6時間雨量)  
2000/6/27~6/28  
期間内毎正時における  
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)  
2000/6/27~6/28



## 解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

3時間雨量では富士山周辺並びに中部、西部の山沿いで多かったことがわかる。温暖前線通過前から、局地的な前線が形成され、その近傍で雨雲が発生していたこと、強風により前線が北上する過程で一時的には山沿いでも強い雨となったことがわかる。風の強さと局地的な前線上の強雨の関係は、重要な着目点である。